

(様式5)

第三者評価報告書

第三者評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	19

事業所名	グループホーム ゆずりは			
事業所番号	2873600346			
住所	たつの市揖西町新宮29-6			
事業所対応者	役職	管理者	氏名	小川 守
自己評価実施日	平成 20年 5月 5日			
評価機関名	特定非営利法人 日本福祉文化研究センター			
第三者評価実施日	平成20年5月21日			
評価結果確定日	平成 20年 8月 21日			
評価調査者	調査者番号	HC06-1-0048	氏名	岡田 明美
	調査者番号	HC07-1-0031	氏名	三好 通裕
	調査者番号	HC07-1-0032	氏名	中村 和代

項目番号について

- ・第三者評価は30項目です。
「第三者」の列にある項目番号は、第三者評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。
- ・番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目への取組状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法について

- 「取り組みの事実」
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
- 「取り組みを期待したい項目」
確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
- 「取り組みを期待したい内容」
「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語について

- 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
- 家族 = 家族に限定しています。
- 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者を兼ねる場合は、その人を指します。
- 職員 = 管理者、常勤職員、非常勤職員及びパート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
- チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、地域包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

【評価実施概要】

事業所番号	2873600346
法人名	有限会社 湧福の家
事業所名	グループホーム ゆずりは
所在地	たつの市揖西町新宮29-6 (電話)0791-64-8228
評価機関名	特定非営利法人 日本福祉文化研究センター
所在地	大阪市都島区友漕町1丁目3-36-401
訪問調査日	平成20年5月21日

【情報提供票より】(H20年5月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 7月 15日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 9人
職員数	14人 常勤 10人, 非常勤 4人, 常勤換算 7.3人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造地上2階建 耐火構造造り
	2階建ての 1, 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000円	その他の経費(月額)	30,000円	
敷金	有(100,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 645円 (月額 20,000円)			

(4) 利用者の概要(5月21日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	1	要介護2	2		
要介護3	1	要介護4	4		
要介護5	1	要支援2	0		
年齢	平均 87.2歳	最低	73歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	栗原病院、魚橋病院、
---------	------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

のどかな田園風景の中にあるこのグループホームでは、当たり前にも普通の生活を送る。「小さいからこそできること」を大切にするとした基本理念のもとに、利用者の家でありたいとして、職員もその家の家族としてサービスを提供している。当然、家のあるべき姿として、利用者の90歳代と70歳代との年齢の差から、嫁、姑といった関係そして、職員の孫の世代といった関係を築き、それぞれの利用者が残存能力を生かしながら、共に生活できる施設である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) 前回評価での主な改善課題として、地域との連携であったが、民生委員、婦人会等への働きかけで、連絡推進会も参加者が増えつつある。また、地域における認知度も高まり、民生委員との連携で高齢者の見守り活動にも参画している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 現在、利用者の状態は介護度が重度化しており、個別対応にならざるを得なくなってきた。また、理想としている介護を目指すためにはリスクが大きすぎる状態となっている。そんな中で、それぞれの職員がリスクと理想とする介護の振り返りに第三者評価が活かされている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6) 連絡推進会も参加者が増えグループホームの理解も進んできた。介護の専門家として地域住民からの相談もあり、地域とのつながりも強くなってきている。施設としてはさらに地域密着サービスを提供したいと考えているが法律、制度の縛りがあり提供できない状況がある。今後の課題としては、地域において望まれているサービス提供の実現にむけてさらなる行政との連携に期待する。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 現状にて問題となっているのは、利用者の介護度の重度化である。家族からは、このホームで看取ってほしいといった希望があるが、法律、制度上において行政からの指導などから、特別養護老人ホームや病院などを紹介するが、家族の納得が得られない状況がある。可能な限り利用者本人や家族の希望に添えるよう、グループホームの機能拡大が行えるように、行政機関や福祉関係機関との連携を深めることを期待する。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 地域においては、連絡推進会を通じグループホームの理解がすすんでいる。外出時等には、声かけを行って来たり、野菜などの差し入れをいただいたり、地域の中の一住民として受け入れて来ている。